

栗原の稲作通信

令和3年第2号 令和3年6月14日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

間断かん水を基本とし、茎数が少ないほ場では浅水管理で分けつの発生を促しましょう。

いもち病の原因となる残苗を処分しましょう。

気象経過

- 5月下旬の気温は低く、日照時間は少なく、降水量は多く推移しました。
- 6月に入り気温は高く、日照時間は多く推移しています。降水量は多く、6月4日に築館で77.5mmの降雨を観測しました。

東北地方1か月予報 期間：6/12~7/11
令和3年6月10日仙台管区气象台発表抜粋

予報のポイント

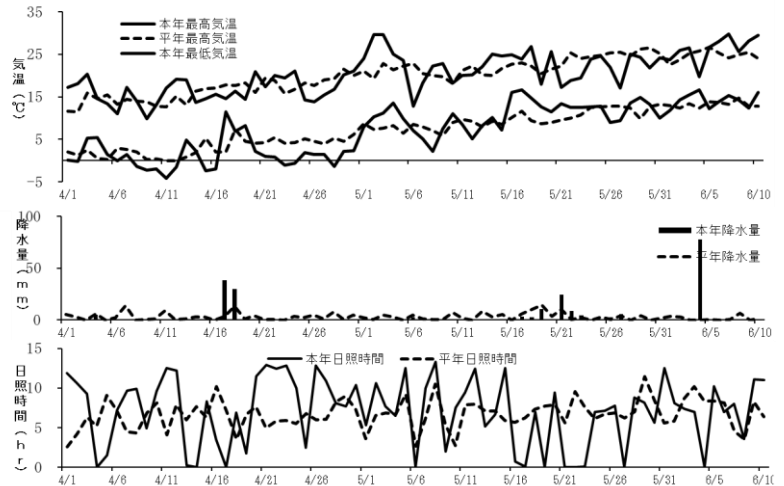
暖かい空気に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

予想される向こう1か月の天候

平均気温：高い 見込み

降水量：ほぼ平年並 の見込み

日照時間：ほぼ平年並 の見込み



気象経過（アメダス築館）*点線は平年(過去5か年平均)

生育経過（6月10日現在）

■生育調査ほ（移植）

- ひとめぼれでは、草丈は平年並、茎数及び葉数は平年と比較して少なくなっていますが、生育は概ね順調です。

表1 生育調査ほ調査結果（6月10日現在）

品 種	地 区	田植日	本年	草丈(cm)		茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差
ひとめぼれ	築館	5/9	31	105	95	292	118	89	7.2	-0.7	-0.8	41.2	-1.0	-0.5
ひとめぼれ	若柳	5/19	30	106	104	176	91	65	6.5	-0.1	-0.6	37.3	-2.0	-2.4
ひとめぼれ	一迫	5/8	24	96	-	168	132	-	6.5	-0.7	-	37.5	-0.5	-
ひとめぼれ	管内平均	5/12	28	103	-	212	112	-	6.7	-0.5	-	38.7	-1.1	-
ひとめぼれ	古川農試	5/10	25	91	90	266	139	94	6.6	-0.2	0.1	40.4	1.1	-0.9
ひとめぼれ	県平均	-	28	101	97	231	113	95	-	-	-	40.3	0.8	1.1
つや姫	築館	5/24	25	94	85	57	48	40	5.5	-0.6	-0.8	28.5	-4.5	-7.7
だて正夢	築館	5/20	31	113	-	100	77	-	5.6	-0.1	-	32.0	-6.2	-
萌えみのり	金成	5/13	33	120	108	127	80	81	7.1	-0.5	-0.1	43.6	1.6	-0.4

注1:平年値は過去5か年平均。

注2:一迫ひとめぼれ、築館だて正夢は令和2年から調査農家変更のため平年値はなし。

注3:ひとめぼれ管内平均は築館、若柳、一迫3か所の平均値。

注4:ひとめぼれ県平均は、県内各普及センター生育調査ほ+古川農業試験場作況試験ほ（5/1,5/20移植除く）の平均値。

■直播展示ほ

- 直播展示ほ（志波姫・萌えみのり）の生育調査は6月20日調査から実施します。

今後の管理

■水管理

- ・中干しまでは間断かん水が基本ですが、移植が遅い場合や直播栽培などの茎数が少ないほ場では、浅水管理（水深2～3cm）により分けつの発生を促しましょう。
- ・中干しは、有効茎数が確保されたら行いましょう。
- ・5月上旬に田植を行ったほ場はまもなく有効茎数が確保される見込みですので、ほ場で茎数を数えて、適期に中干しを行いましょう。
- ・だて正夢は、分けつしにくく穂数が少なくなりやすい傾向があります。ほ場で茎数を確認し、幼穂形成期に茎数が390～460本/m²になるように、中干し等の水管理を行いましょう。

有効茎数

ひとめぼれ	410～460 本/m ²
ササニシキ	480～510 本/m ²
つや姫	400～440 本/m ²
だて正夢	350～400 本/m ²

※有機物を多用している場合は、硫化水素などのイネに有害なガスが発生しやすいので、溝切りや落水によりガス抜きを行いましょう。

◆◆◆金のいぶき栽培のポイント◆◆◆

ほ場で茎数を確認し、幼穂形成期に茎数が570～620本/m²になるように、中干し等の水管理を行いましょう。金のいぶきは根が傷みやすいので、強い中干しは避けましょう。

■病害虫防除

▷葉いもち

- ・残苗はいもち病の発生源となりますので、速やかに処分しましょう。
- ・箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を防除適期に散布しましょう。

◆◆◆萌えみのりのいもち病対策◆◆◆

萌えみのりのいもち病抵抗性はひとめぼれ並ですが、多肥栽培により葉色が濃く推移しやすいので、ひとめぼれよりいもち病にかかりやすくなります。
田植え時に箱施用剤による予防防除を行っていないほ場では、本田で予防防除を実施しましょう。

◆◆◆金のいぶきのいもち病対策◆◆◆

金のいぶきはいもち病に非常に弱い品種です。箱施用剤と水面施用剤による2回防除を必ず実施しましょう。また、必要に応じて出穂直前に茎葉散布剤で穂いもち防除を行いましょう。

▷斑点米カメムシ類

- ・畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となります。計画的な草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えましょう。
*管内ではアカスジカスミカメの越冬世代の大半は6月中旬までに成虫となり、水田周辺のイネ科雑草に定着するとみられます。
 - ・ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草により、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内で増殖して被害が助長されます。
残草が目立つ場合は、中期・後期除草剤等により追加防除を実施しましょう。
- *JA新みやぎ栗っこ環境保全米等では、剤の指定がありますので、JAに御確認願います。

農薬危害防止運動実施中 6月1日～8月31日まで

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。最新の農薬登録情報は、（独）農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。